

(公印省略)

14病防第1号の3
平成14年5月31日

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について(送付)

このことについて、病虫害発生予報第3号(6月)を発表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予報第3号(6月)
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
水稲	いもち病	-	やや少ない
	萎縮病	-	並
	ツマグロヨコバイ	並	並
	縞葉枯病	-	やや多い
	ヒメトビウンカ	やや多い	やや多い
	イネミズゾウムシ	並	並

【普通作物 - 水稲】

1 いもち病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、早期水稲における葉いもちの発生は認められなかった。

イ 気象予報では6月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年並～多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 苗いもちが発生した場合は、ビーム水和剤75の500～1,000倍液を1箱当り500ml灌注する。

イ 補植用の置き苗は、葉いもちの伝染源になりやすいので早めに処分する。

2 萎縮病（ツマグロヨコバイ）

（1）予報の内容

発生量：平年・前年並

（2）予報の根拠

ア エライザ法による検定の結果、イネ萎縮ウイルス保毒虫率は平均 0.1%（平年：0.8%、前年：0%）であった。（詳細は平成14年度病害虫発生予察予報第2号参照）

イ 小麦ほ場におけるツマグロヨコバイの片振り20回すくい取り成幼虫数は平年並で、畦畔及び休閑田でも同様であった。

ウ 5月5半旬調査の結果、早期水稲における萎縮病の発病は認められず、10株払い落とし成幼虫数は、平均3.9頭（平年：0.9頭、前年：1.2頭）であった。

（3）防除上注意すべき事項

ア 萎縮病の常習発生地を除き、防除の必要はない。

イ 防除薬剤については「平成14年度普通作物病害虫防除基準」を参照する（以下の病害虫についても同様）。

3 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

（1）予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

（2）予報の根拠

ア エライザ法による検定の結果、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平均 1.2%（平年：0.4%、前年：0.7%）であった。（詳細は平成14年度病害虫発生予報第2号を参照）

イ 小麦ほ場におけるヒメトビウンカの片振り20回すくい取り成幼虫数は平年並で、畦畔及び休閑田でも同様であった。

ウ 5月5半旬調査の結果、早期水稲における縞葉枯病の発病は認められず、10株払い落とし成幼虫数は、平均1.4頭（平年：0.1頭、前年：0.1頭）であった。

（3）防除上注意すべき事項

前年に縞葉枯病の発生が多かった地域や保毒虫が確認された地域では、箱施薬による防除を行う。

4 イネミズゾウムシ

（1）予報の内容

発生量：平年・前年並

（2）予報の根拠

5月5半旬調査の結果、早期水稲における50株当たり成虫数は平均 3.4頭（平年：3.9頭、前年：2.8頭）であり、食害株率は平均 46.5%（平年：43.0%、前年：49.5%）であった。

（3）防除上注意すべき事項

ア 早期水稲では間断灌水及び中干しを徹底し、被害の回避を図る。

イ 早期水稲での発生が多かった地域では、早植え田における発生に注意する。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 黒点病 ミカンハダニ アブラムシ類	並 - 並 並	並 並 並 並
ナシ	黒星病 ハダニ類 アブラムシ類	やや多い 並 並	やや多い 並 並
ブドウ	黒とう病 べと病	やや多い -	やや多い 並
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	やや少ない 並 やや多い 並	並 並 やや多い 並
イチジク	アザミウマ類 1	並	並
スモモ、モモ ナシ、カキ、 カンキツ等	カメムシ類	多い	多い

1 発生現況及び発生予想は、前年までの5カ年の平均値を平年値とした

【果 樹】

1 カンキツのそうか病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年並で前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、発病葉率は平均0.5% (平年: 1.1%、前年: 0.1%)、発病ほ場率は35.0% (平年: 44.4%、前年: 11.1%)であった。

イ 気象予報では6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

果実の落花直後～指頭大期頃に降雨が多いと発病するので、この時期の薬剤防除を徹底する。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年並で前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、寄生葉率は平均8.8% (平年: 10.6%、前年: 15.8%)、発生ほ場率は55.0% (平年: 46.0%

、前年：66.7%)であった。

イ 気象予報では6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 6月に高度精製マシン油乳剤を散布する。ただし、本剤は高密度時には十分な効果が得られないため、低密度時に散布する。また、落花期以降にデラン剤を散布した場合には1カ月以内に本剤を散布すると薬害を生じるので使用しない。

イ 防除にあたっては、葉裏に十分薬液がかかるよう十分な薬量を使って散布むらのないように行う。

3 ナシの黒星病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、発病果率は平均1.1%(平年:0.4%、前年:0.4%)、発生ほ場率は25.0%(平年:11.1%、前年:12.5%)と前年、平年より多かった。

イ 気象予報では6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

平成14年5月14日付け 注意報2号参照

4 ブドウの黒とう病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、発病葉率は1.3%(平年:1.3%、前年:0%)平年並であったが、5月上旬から中旬にかけての長雨で発病ほ場率は42.9%(平年:26.8%、前年:0%)と平年の1.6倍に達している。

イ 気象予報では6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉及び罹病果はできるだけ摘除して二次伝染を防ぐ。

イ 発生園は袋かけを早めを実施する。

5 カキの炭疽病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年並で前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、発病枝率は平均0.3%(平年:1.0%、前年:0.1%)、発生ほ場率は平均11.8%(平年:25.8%、前年:6.3%)であった。

イ 気象予報では6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

罹病枝は、伝染源になるので極力除去する。

6 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬の調査では、寄生枝率は平均2.5% (平年: 0.8%、前年: 0.5%)、発生ほ場率は64.7% (平年: 27.1%、前年: 18.8%)であった。

イ 気象予報では6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 比較的齢期が揃う第1世代幼虫出現期(6月上旬)に1回目の防除を行う。さらに10日後に2回目の防除を行う。

イ 本種は、ヘタの下や葉と重なった果実の表面などの薬剤がかかり難い箇所によく寄生しているため、十分な薬量を使って散布むらのないよう防除する。

7 イチジクのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量: 平年(前5カ年平均)並で前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 県農業総合試験場豊前分場に設置した誘引剤への5月の総誘殺数は294頭(前年: 587頭、平年: 288頭)であった。

イ 気象予報では6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

園周辺で6~8月に開花する作物を栽培せず、また除草に努める。

8 スモモ、モモ、ナシ、カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量: 平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 筑紫野市吉木の予察灯・集合フェロモントラップにおける4月1半旬~5月6半旬までのカメムシ類の累計誘殺数は、下表のとおり前年より多い。

イ 5月5半旬のナシの調査では、被害果率は平均0.3% (平年: 0.02%、前年: 0%)で、平年より早く被害が発生している。

ウ 気象予報では6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除薬剤は、樹種によって使用できる薬剤が異なるので注意する。

イ 地域によりヒノキ球果の結実量に差があるため、飛来時期が異なることが予想されるので、果樹園内をよく見回り、発生状況に応じて防除を行う。

ウ 過去に大発生した平成8年は6月下旬から果樹園に多飛来が見られたことから、気温が高めに経過している今年は、飛来時期が早まる可能性があるため、6月中旬以降は特に注意する。

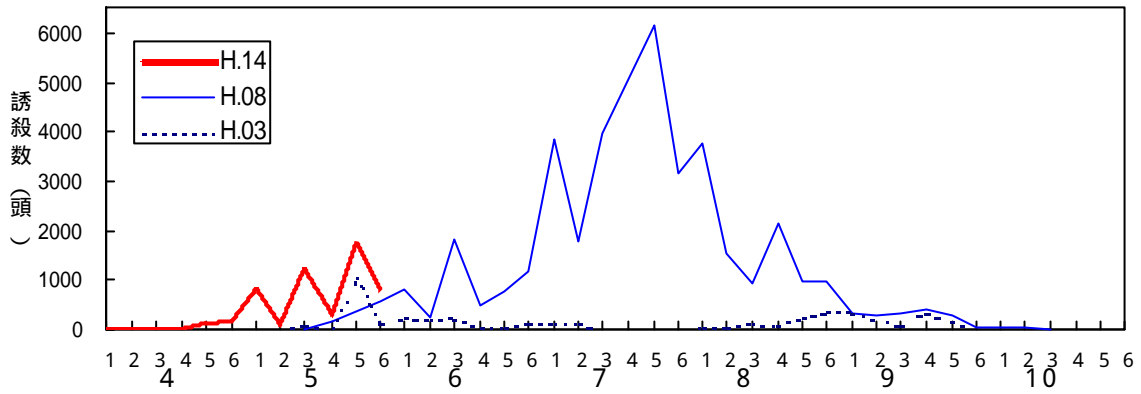
予察灯及び集合フェロモンによるカメムシ類の誘殺虫数（筑紫野市吉木）

調査時期	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ	
	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ
4月1半旬	0(0)	5(0)頭	0(0)	0(0)頭	0(0)	1(0)頭
2	2(0)	16(0)	3(0)	0(0)	0(0)	0(0)
3	0(0)	11(0)	7(0)	0(0)	0(0)	0(0)
4	6(0)	1(0)	15(0)	0(0)	0(0)	0(0)
5	115(0)	465(3)	174(0)	3(0)	3(0)	0(0)
6	156(0)	145(2)	215(0)	28(0)	5(0)	5(0)
5月1半旬	792(0)	869(8)	535(0)	53(0)	8(0)	10(0)
2	51(1)	29(31)	159(0)	3(1)	0(0)	1(0)
3	1,209(0)	925(10)	951(0)	196(0)	5(0)	16(0)
4	279(1)	356(9)	910(2)	213(0)	0(0)	6(0)
5	1,709(10)	2,593(11)	1,419(8)	1,338(4)	2(0)	22(0)
6	784(4)	2,142(12)	620(2)	695(3)	1(0)	10(1)
合計	5,103(16)	7,557(86)	4,958(12)	2,529(8)	24(0)	71(1)

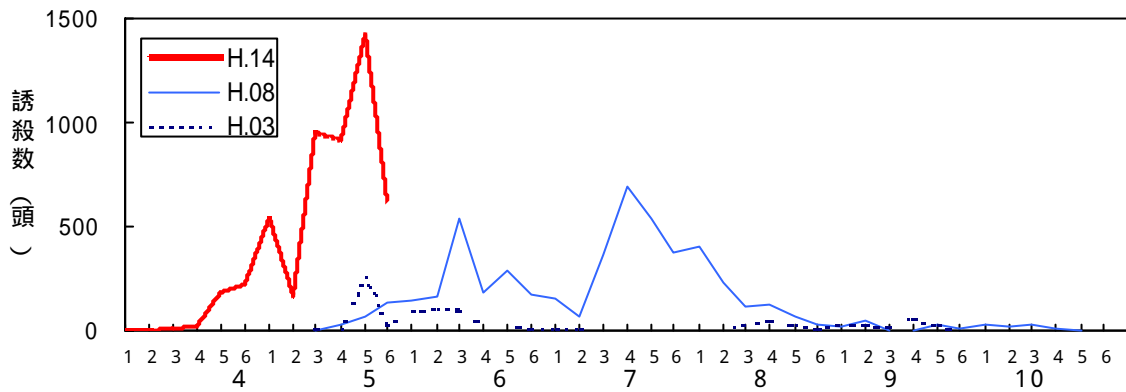
注1) 予察灯：20Wブラックライト

注2) ()は前年の誘殺虫数

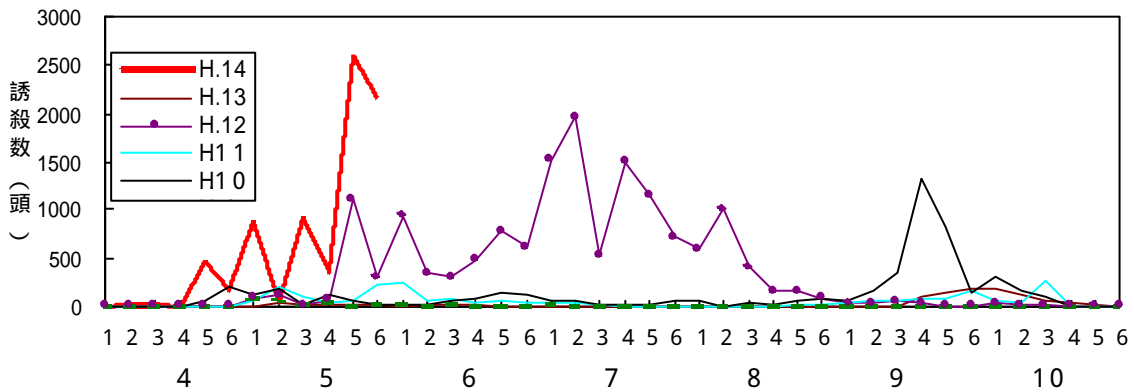
注3) 5月6半旬は28日までのデータ



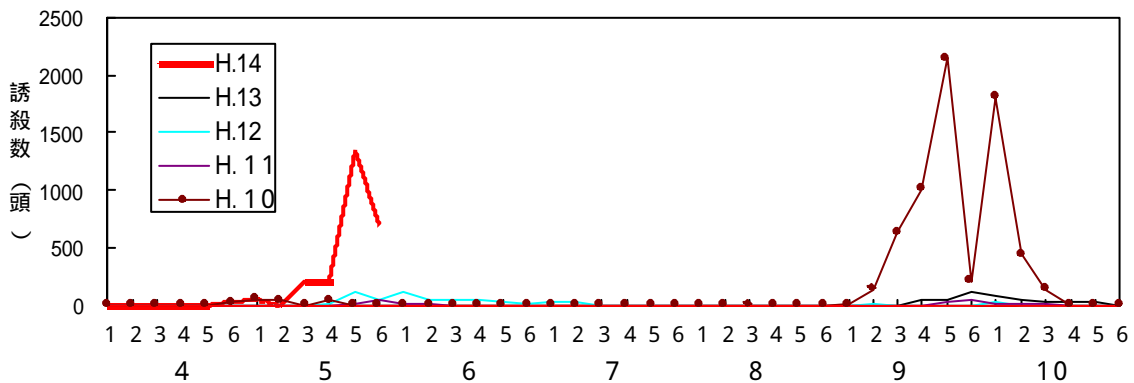
予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺虫数 (筑紫野市)



予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺虫数 (筑紫野市)



集合フェロモンによるチャバネアオカメムシの誘殺虫数 (筑紫野市)



集合フェロモンによるツヤアオカメムシの誘殺虫数 (筑紫野市)

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病	並	並 1
	もち病	並	並 1
	カンザワハダニ	やや少ない	やや少ない
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	やや多い

1 山間地域はやや多い

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並 (山間地域は平年・前年よりやや多い)

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬の調査では、発病葉は認められなかったが、山間地域の茶園では発生が認められる (1 m²当たり病葉数 平年 : 0 . 2 葉、前年 : 0 葉)。

イ 本病は雨滴により胞子が飛散するので、降雨の多い時に多発する。

ウ 気象予報では、6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 摘採残葉での発生に注意し、萌芽から1～2葉期までに薬剤防除を実施する。また、降雨前の防除の方が効果は大きい。

イ 本病害の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用しない。

ウ 防除薬剤は「平成14年度茶・いぐさ病虫害防除基準」を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める (この項は以下の病虫害についても同様)。

2 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬の調査では、寄生葉率は平均1 . 9 % (平年 : 9 . 5 %、前年 : 4 . 8 %) で、50葉当たり寄生虫数は平均4 . 1頭 (平年 : 22 . 9頭、前年 : 7 . 6頭) であった。

イ 気象予報では、6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生の多い茶園もあるので発生状況を調べ、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

イ 各種薬剤に対する本種の感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用しない。

3 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年よりやや早い

発生量：平年並で、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬の調査では、巻葉は認められなかった（1㎡当り巻葉数 平年：0葉、前年：0葉）。

イ フェロモントラップによる誘殺数（4月1半旬～5月5半旬）は、筑後市では481頭（前8カ年平均：415頭、前年：339頭）、八女市では142頭（前年：120頭）であった。また、第1世代成虫の誘殺は5月5半旬から認められているため、第1世代成虫の発蛾最盛期は、平年より1半旬程度早い6月1～2半旬と考えられる。

ウ 気象予報では、6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉がみられたら直ちに防除を行う。

イ 第1世代成虫の発蛾最盛期は、平年よりやや早くなる可能性が高いので、ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

4 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬のたたき落とし法による調査では、平均0.2頭（平年：0.3頭、前年：0.1頭）の発生であった。

イ 気象予報では、6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生のみられない茶園もあるので、発生状況をよく調査し、たたき落とし法（A4版白紙上）で4頭以上発生している場合は防除を行う。

5 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 5月2半旬のたたき落とし法による調査では、平均11.8頭（平年：2.9頭、前年：4.1頭）の発生であった。

イ 気象予報では、6月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発している茶園もあるので、発生状況をよく調査し、たたき落とし法（A4版白紙上）で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 各種薬剤に対する本種の感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用しない。

【野菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	並 やや少ない 並 並 並	並 やや少ない 並 並 並
ネギ	シロイチモジヨトウ *	やや多い	やや多い

- ・ * はフェロモントラップによる誘殺虫数である。
- ・ アスパラガスは、前年より調査のため、前年値との比較である。

1 アスパラガスの斑点病

(1) 予報の内容

発生量：前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発病株率は平均12.4%（前年3.9%）であった。一部のほ場では多発している。

イ 気象予報では、6月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 過剰茂になると多発するので、整枝を的確に行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤による防除を徹底する。

2 アスパラガスのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、寄生株率は平均13.9%（前年：17.8%）であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

3 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、寄生株率は平均42.2%（前年：57.2%）であった。一部のほ場では多発している。

イ 気象予報では、6月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

4 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 朝倉町長湊の5月2半旬～5半旬のフェロモントラップによる誘殺虫数は20頭(平年：19頭、前年：22頭)であった。

イ 気象予報では、6月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

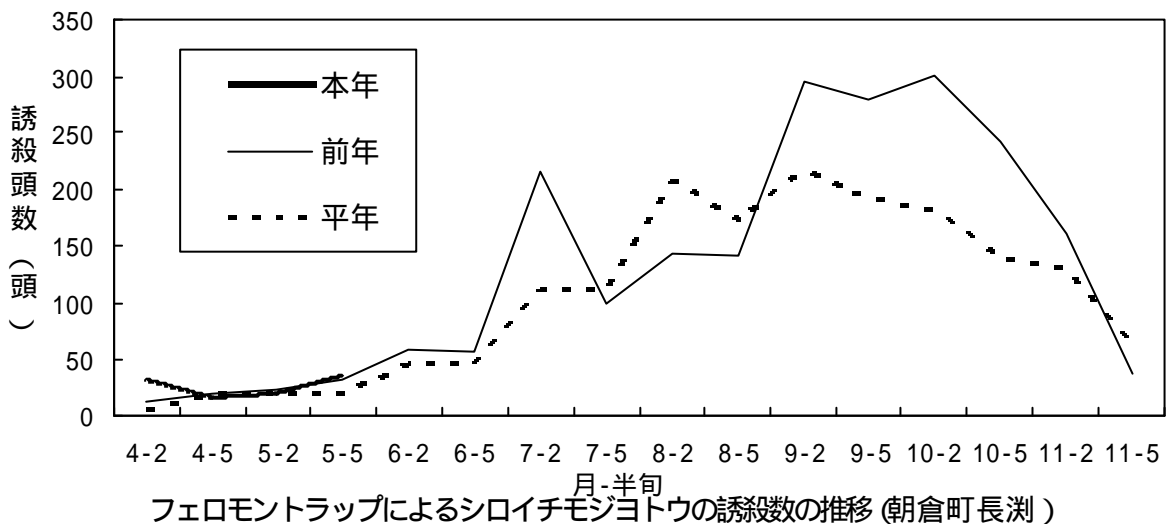
ア 今年、誘殺虫数が平年より多く発生時期も早く、今後の発生動向に注意が必要である。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫はそのまま葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

オ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ・テ・ション散布を行う。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数の推移(朝倉町長湊)

6月の気象予報（1か月）

（予報期間5月25日～6月24日）

2002年5月24日

福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並が多い可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	30	50
降水量	30	50	20
日照時間	20	40	40

- < 1週目の予報 > 5月25日～5月31日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 6月1日～6月7日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 6月8日～6月21日
この期間の平均気温は、高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量（mm）	日照時間（h）	1週目	2週目	3-4週目
21.9	209.8	170.3	20.4	21.4	22.5

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

www.jppn.ne.jp/fukuoka

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作・イグサ）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）